

# 学びの架け橋



人にまっすぐ。  
大阪教育大学

01 「教師にまっすぐ」修了式

02 リレーエッセイ

03 加盟校出身の学生の紹介

04 交流事業の紹介

06 加盟校の取組紹介

07 大教大トピックス／編集後記

## 教師をめざす高校生育成プログラム 「教師にまっすぐ」修了式

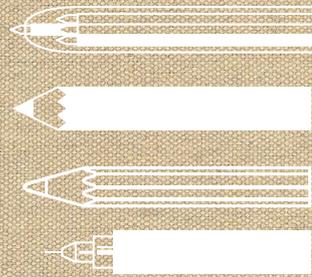
令和2年度「教師にまっすぐ」修了式は、3密を避けるため参加者を5部屋に分け Zoom により接続するなどして、令和2年12月26日に行いました。





RELAY ESSAY

# リレーエッセイ



## 「言葉の力」

大阪府立三島高等学校長 井上 隆司

「テストはぱっとせんけど、説明わかりやすいわ。教えんの手いんちゃうか」という友人の言葉。「それがあったか」とビビッと電流が走る感覚。一緒に勉強をしていた時にこの会話がなければ、私は教員の道に進むことはなかったと思います。

私は幼稚園の頃から万博に連れてもらってスタンプを集め、叔母からもらった地図帳を眺めるおとなしい子でした。小学校に入ると田んぼや雑木林で近所の友達と遊ぶ剣道小僧。当時の枚方は大阪の鬼門の方角にあたることから野山も多く、住宅造成地が広がっていました。私は至る所に散乱していた土器を拾って家の軒下に並べ、考古学者気取りでした。高学年のときの担任だった小林先生は子どもたちの可能性を引き出すことに長けておられました。夏休みの自由課題で教室の端から端まであるイラスト入り年表の巻物を提出したとき、土器を収集していることもあわせて「すごいね」と褒めてくださったことは今でも記憶に鮮明です。また、先生はレクリエーション好きで子どもの企画をいつも受け入れてくださいました。毎月がお楽しみ会。そんな先生に憧れて教育学部をめざすことに。地元の高校に進学して消極的な選択で文系を選ぶことにしたのですが、友人のお陰で目標が定まりました。

大学ではちょっとした挫折を経験。入学前に体育会の剣道部に体験入部。1浪でしたので、1年半のブランクは大きく、稽古についていけず1週間で退部。小学校から慣れ親しんだ剣道を離れ、キャンプ場のカウンセラーの誘いに乗りました。地理のゼミに所属して、充実した4年間でした。2回生のときに高校生の野外研修を手伝う機会がありました。参加していた男の子と夜通し話をする中で複雑な思いを聴くことに。小学校の先生を夢見て入学した大学ですが、社会人になる前の葛藤を抱える生徒に関わる高校の教員も魅力的と思い始めました。母校の小学校で5週間の教育実習を終えると、「やっぱり小学校の教員がいい」と心は揺れました。結局、高校社会科の教員になりましたが、幼稚園から大学までの経験が影響したのだと思います。

教員としては4校経験しましたが、最初に赴任したのは新設の学校。先輩の先生方から学び、教材づくりとクラブ指導に明け暮れました。生徒を支え支えられながら共に成長する私の原点です。2校目の学校では未経験の運動部顧問になりました。3年生の部長は諦めず初心者の方に優しく相手をしてくださいました。その競技は私の趣味になり世界が広がることに。部長には心から感謝です。2年間の行政職の研修を経て赴任した学校は、元勤務していた学校の統合先。新しくできた学校はユニークでした。入試倍率が3倍を超えて入学してきた1期生の生徒は個性的でエネルギーが溢れていました。生徒も教員も「まずは何でもやってみよう」、そんな感じでした。たくさんの失敗もありましたがチャレンジ精神を地でいく学校で生徒と共に学べたことは私の大きな財産です。2年生の担任が終わるとき、「先生、これに思い出を綴って」と言ってクラスの生徒が分厚い白紙の日記帳を私にくれました。ちょっと偉そうですが、教育は無地のキャンパスに描いていくようなもの。生徒が何を伝えたかったのか意味深でした。多くの言葉に励まされ、たくさんのご縁をいただけたことに心から感謝です。

高校生の皆さんはこれからも多くの人に出会うでしょう。私のように何気ない言葉が将来を選択することに繋がるかも知れません。言葉には不思議な力があります。知恵や勇気をもたらすこともあります。皆さんの洋々たる人生の出会いや経験に幸あれと願っています。



井上 隆司 いのうえ たかし  
大阪府立三島高等学校長

# 加盟校出身学生・卒業生の紹介



いしくろ

石黒 まいさん

養護教諭養成課程 3回生  
四條畷高校 平成31年3月卒業

## 一高校時代の思い出は

高校生活の大半の時間を過ごした部活動です。ラグビー部のマネージャーとしてさまざまな経験をさせていただき、礼儀や人間性を高めることができました。また、尊敬できる大切な仲間に出逢えました。

## 一養護教諭をめざしたきっかけは

学校生活が辛かった時に支えていただいた先生方に憧れたことがきっかけです。どんな時も私が選んだ道を後押ししてくださったことがとても印象に残っています。その経験から、「教室に戻すこと」という目標を押しつけるのではなく、その子にとっての最善を常に考えられる、また、さまざまな

## 一クラブ、サークルなど、大学生活で頑張っていること

大学のサークルである「よさこいソーランサークル凜凜」に所属しています。構成や振り付、曲、衣装、大道具など仲間と協力しながら1から演舞を作っています。自分たちで作上げた演舞を全国各地のお祭りで披露する際の達成感や感動は今でも強く心に残っています。

## 一おすすめの勉強法

大学受験の際には、毎晩寝る前に、次の日にやりたい勉強内容をリストアップするようにしていました。そうすることで、朝からやる気が出て集中して勉強に取り組むことができました。限られた時間をいかに有効活用するかを考えながら勉強することが大切であると思います。

## 一大教大のいいところ

教師になるという夢を叶えるための教育実習や、講義などのカリキュラムがとても豊富なところだと思います。また、1回生の頃から実際の教育現場を経験することができるのも魅力であると思います。自分自身の良さや課題点と向き合いながら自分らしく勉強することができる環境がとてもありがたいです。

## 一大学生活を有意義に過ごすために心がけていることは

やりたいと思ったことをとりあえずやってみる!ということを意識しています。失敗したらどうしよう、自分自身に合っているのか、周りからどう思われるのか...と考えてしまいがちですが、やってみてからどうするか考えるようにすることでさまざまな経験をする事ができています。



選択肢を示すことができる養護教諭になりたいと思うようになりました。

## 一養護教諭養成課程のいいところ

同じ養護教諭を志す仲間がたくさんいるところだと思います。日々夢に向かって努力する仲間が教員採用試験ではライバルになると思うと、私自身も身が引き締まります。ライバルだからといってお互いに敵視し合うのではなく、お互いのいいところを認めて高めあうことのできる環境にあるので、とても恵まれているなと感じています。

たなか かなた

田中 奏大さん

教育協働学科理数情報専攻自然科学コース 2回生  
大手前高校 令和2年3月卒業

## 一高校時代の思い出は

僕は軽音楽部に所属していて、それもある文化祭が一番の思い出です。文化祭ライブは学内のライブの中で、最も多くの人が見に来てくれて、それだけでなく軽音楽部以外の生徒もバンドを組んで出演できるところが、普段とは違うお祭りの雰囲気があり、特別な経験だったと感じています。

## 一なぜ理数情報専攻自然科学コースをめざしたのか?

中学生のころから、理科の教師になりたいと思っていました。教員免許を取るだけなら、他大学・他学部でも可能ですが、周りの学生が教師をめざす人が多く、さらに理科に関する専門の内容も理解を深めることができるため、自然科学コースに進学しました。また、教師をめざす人へのサポートが充実している点が、この専攻・コースをめざす決め手になったと思います。

## 一理数情報専攻自然科学コースのいいところ

自然科学コースでは、実験などを含む専門科目と、教員免許を取るために必要な教職科目をバランスよくとることができます。講義の中には、理科に関するデジタル教材を作成するものもあり、専門科目と教職、さらにICTなども結びつけ、教員としてこれからの社会に求められる技術を学ぶことができます。

## 一クラブ・サークルのことや大学生活で頑張っていること

大学生活では、人とつながることを大事にしています。専門科目、教職科目どちらも、発展的な内容であったり、答えや方法の一つに決められない内容であることが多く、難しいです。そんなときに、同じコースの友達と休み時間や帰りの電車内、LINEなどで考えを共有することが、自分自身の考え方の深みを与えてくれていると思います。高校同様、軽音楽部に所属していてコロナ禍により、ほとんど活動できていませんが、同学年・同コースの部員とのつながりや、先輩とも仲良くなることができ、さまざまな話を聞くことができ所属してよかったと思っています。

## 一おすすめの勉強法

僕は全く集中力が持たないという自覚があるので、少し工夫をしながら勉強しています。一つは場所を変えること。もう一つは内容を変えることです。高3の時は、放課後2時間を教室で勉強し、その後1時間を学校内の自習室へ移動。帰宅後も自宅のリビングで場所を入れ替えながら勉強していました。そして1時間を目安に科目を変えていました。当時はあまり意識していませんでしたが、モチベーションが上がらなくても、場所を移動することはできるので、自分を律しているという自信にもつながっていたのではないかと思います。

## 一大教大のいいところ

自然に包まれているところです。大学に行くのに坂を登らなければいけないのは、少々面倒ですが、外で昼ごはんを友達と食べている時などは、それだけでピクニックのような心地よさがあり、とてもいい場所だと思います。周りの学生も、教師をめざす人が多いので初対面であってもコミュニケーションがとりやすいところも魅力だと思います。

## 一大学生活を有意義に過ごすために心がけていること

自分もまだまだ大学生活を有意義に過ごしているとは言えませんが、将来役立つ経験をする、そのチャンスを見逃さないように意識しています。個人的な近況になりますが、この文章を書いている今、実はある支援学校のICT部をサポートすることを、大学の教授から紹介され、支援学校の先生と連絡を取っている最中です。もちろんこのチャンスを活かせるかどうかは自分次第ですが、些細なことから挑戦していくことが、大学生活・後の人生を彩っていくものだと信じて行動しています。





## 教師をめざす高校生対象特別プログラム 「教師にまっすぐ」を開講

教師をめざす高校生が、その志をより確かなものにするためのプログラム「教師にまっすぐ」が、7月25日(日)にスタートしました。これは大阪府立高校42校で構成する「府立高校教職コンソーシアム」加盟校の1、2年生を対象に実施するもので6年目となる取組です。今年度の受講生は約280人となり、教師への関心の高さがうかがわれました。受講生は、12月までの全5回にわたり、さまざまなプログラムに挑戦します。

第1回となる開講式は、Web 会議システム (Zoom) を活用してオンラインで実施しました。初めに、和田良彦副学長が、本プログラムの概要について説明を行い、「オンライン中心のプログラムとなっていますが、新しい生活様式のもと新しい学び方をともに作り上げていきましょう」とのメッセージを送りました。

元府立高校校長の川端康之入試アドバイザーによる講義「先生になるには」では、参加者に質問を投げかけ、チャットに書いてもらったコメントを具体的に受け答えながら、教員養成大学で学ぶことの意味や、先生の専門性、高校時代にしてほしいことについて説明しました。

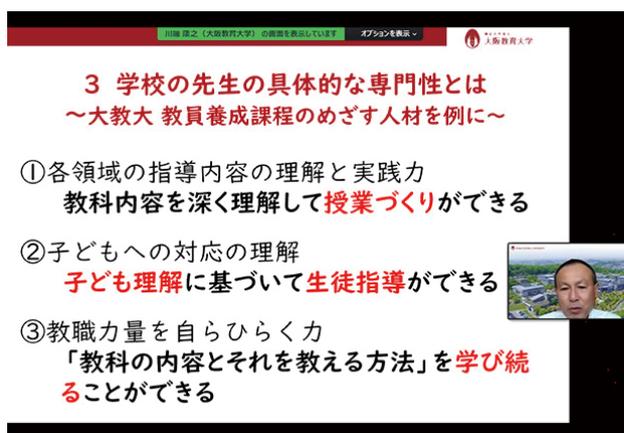
受講生からは「自分と同じ志を持った人達が集まる教育養成大学に、より興味を持ちました」「教員になることの難しさを実感するとともにやりがいを学ぶことができ、より先生になりたいという思いが強くなりました」「教師には授業だけでなく、生徒と向き合うための技術や知識が必要だと改めて感じました」などの感想が寄せられました。

第2回はオープンキャンパスに参加し、大学の魅力や教員養成大学の特徴などを実際に大学に来て体験する予定でしたが、緊急事態宣言下となったため、オープンキャンパスがWebのみとなってしまいました。それに合わせて「教師にまっすぐ」もオンラインのみでのオープンキャンパスへの参加になってしまいましたが、それでも、受講生たちは、専攻別説明会や模擬授業等を受講し大阪教育大学の特徴や教員養成大学で教員免許を取得する意義などを聴いてくれました。

今後は課題探求などの取組を行い、受講生たちは小論文の作成に挑戦します。



開講式のあいさつを行う和田副学長



川端入試アドバイザーによる講義の様子



### 「教師の学び舎」第12クールを開催

＜新学習指導要領の着実な実施のために＞

～ Society5.0時代の教育を見据えて～をテーマに、「教師の学び舎」第12クールを6月から9月にかけて3回にかけて実施し、約40人が受講しました。

「教師の学び舎」は、府立高校教職コンソーシアム加盟校及び大阪府内の公立高校の教員を対象に、授業力向上や生徒指導、ICT教育など様々なテーマの講義を提供しています。

第12クールは、各回で講師が変わるオムニバス形式で実施し、また、ニューノーマル時代の研修とするため全てオンラインで実施し、各講師は自宅や研究室から講義を行いました。

第1回は、令和2年度まで本学の理事・事務局長で、現在は愛知教育大学理事・副学長・事務局長である新津勝二氏が、愛知県の自宅から「教育改革と教育情報化の重要性～Society5.0時代の新たな学びの実現に向けて～」と題し、学習指導要領改訂の変遷やその背景、並びに情報端末を活用した授業実践事例、プログラミング的思考、教員の働き方改革などについて紹介し、講座を通して『『新たな学び』を実現するための方策』の提言を行いました。また、Zoomのチャット機能を活用し、参加者から寄せられた、勤務校の情報端末の整備状況等や課題、それらに関する質問に新津氏が答えることで、活発な情報交換が行われました。

第2回は、教育工学アプローチによる教師教育、メディア教育を専門とする大学院連合教職実践研究科の寺嶋浩介准教授（高度教職開発系）が講師となり、「1人1台端末の活用による学習者中心の教育～GIGAスクール構想を踏まえて～」と題し、学習者中心

の教育の実現のために教師に求められる役割、1人1台端末の活用が推進される背景、そして、1人1台端末を活用した授業のイメージについて説明しました。後半ではICT活用校の先行事例を紹介し、GIGAスクール構想の実現によりICT活用場面の基本はあまり変わらないが、内容を深化させることが可能になるため、例えば、授業方法もより探求的にすることができると説明しました。また、講義は2回のブレイクアウトルームセッションを行い、受講生同士の積極的な交流を促しつつ、自らの事例と照らし合わせながら振り返ることで1人1台端末の今後の活用等について議論がなされました。

第3回は、応用行動分析的アプローチに基づく発達障害がい支援、学校規模ポジティブ行動支援を専門とする大学院連合教職実践研究科の庭山和貴准教授（高度教職開発系）が講師となり「個別最適化に向けた学習の創造と子どもの支援について」と題し、学習目標（何が出来るようになるか）を定めることの大切さやその達成を妨げる要因などについて説明しました。それらを克服するための効果的な指導法について、3回のグループワークを活用し情報共有を行いました。グループワークは担当教科別に分けられ、参加者たちは比較的同じ経験を持つことから積極的な議論を行いました。

全3回を通して参加した教員からは、「これまでを振り返るとともに、これからの活動を考える機会となった」「他校の実践例が知れてよかった」などの感想が寄せられました。

なお、令和3年度の教師の学び舎は、12月に特別会を実施する予定です。



①第1回講師  
新津勝二 愛知教育大学理事・副学長・事務局長



②第2回講師  
寺嶋浩介 大学院連合教職実践研究科准教授



③第3回講師  
庭山和貴 大学院連合教職実践研究科准教授



# 加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS' PROGRAMMES

## 大阪府立桜塚高校

本校は今年で創立84年目を迎えます。昭和12年に大阪府立第14高等女学校として開校し、その後、大阪府立豊中高等女学校と改称、昭和23年に大阪府立桜塚高等学校と改称して今に至ります。



開校以来、多くの卒業生を輩出し、今もなお現役生は続きゆく歴史の1ページとして、日々、花開く高校生活を送っています。桜塚高校では長く伝統ある歴史を大切に、国際社会で通用する高い志と夢を持ったグローバルリーダーを養成します

### 桜塚高校の特色

#### [1] 充実した授業環境!いつでも学習サポート!

- ・全教室に整備された電子黒板や校内のWi-Fiによる生徒一人一人が持つChromebookを用いた授業により、意欲・関心や情報活用能力を高めます。生徒は全授業でGoogle classroomの「各授業クラス」に参加しており、対面の授業と合わせてGoogle classroomを活用できる体制が整っています。各授業担当との双方向的な繋がりにより、個別最適な学びを実現します。昨年度の新型コロナウイルスでの休校中もオンライン授業や課題配信が、全ての授業でスムーズに実施できました。
- ・今年度から「論理エンジン」を導入し毎朝10分で読解力を育成し、基礎的読解力を測定するためのリーディングスキルテストを実施しています。
- ・専門コースを設置し、より高いレベルの学習活動にチャレンジすることにより学力アップを図り、将来的に国際社会で活躍するグローバル人材を育成します。

#### [2] 放課後も全力応援! 加入率90%を超えるクラブ

活動や、体育祭、桜花祭等の様々な学校行事において、精力的に活動しています。また、近隣の小中学校のイベントに多くの部活が参加し、地域



の方と交流を積極的に行っています。これらを生徒が主体となって活動することでコミュニケーション能力やリーダーとしての能力を身につけます。



体育祭

#### [3] 桜塚発、グローバルリーダーに!

海外語学研修や多くの国からの留学生の受け入れ、授業交流により異文化と触れ合う時間をたくさん設けています。これにより国際社会で通用する人材を育成します。  
[4] 平成23年の「ボランティアバス」参加により、岩手県立大槌高等学校と交流が始まり、平成24年には、今後の交流の継続を誓った「さくら協定」を締結しました。

令和4年度から、制服をブレザータイプに統一。紺を基調とし、スカートやネクタイ、リボンのラインには「桜」をイメージした桃色を使用しています。

本校出身 大阪教育大学

教員養成課程中等教育専攻数学教育コース  
3年生 櫻田 稔さん

#### 【どんな教員をめざしますか?】

高校時代にお世話になった担任の先生のように、生徒一人一人にしっかり向き合え、頼れる教員になりたいです。桜塚高等学校には学校インターンシップを受け入れていただき、高校生の時には気付かなかった先生方の業務の大変さを学ぶことができました。授業や、行事の準備等、全てが生徒の為に、必死に取り組んでおり、そういう面から生徒からの信頼が得られると感じました。さらに、現在、桜塾という放課後の学習支援で30名程の生徒の授業を担当させていただいています。実際に経験して、授業準備の大変さや、生徒に合う難易度、授業の進度を調節するのが、未熟だと感じています。これらの点を残りの大学生活でしっかりと学び、身につけ、憧れの先生のようにになりたいです。



### 課題探究型 STEAM 授業で「ものづくり」ロボットコンテスト・プレゼン大会を開催

「課題探究型 STEAM 教育」という授業で、ロボットコンテストをテーマに「ものづくり」に取り組みました。学生達は、オリジナルロボットを製作し、製作後には、障害物のある競技フィールドを攻略するコンテスト及びプレゼンテーション大会が開催されました。

担当した技術教育部門の吉岡利浩特任准教授は、大会の審査基準はスピード、アイデア、技術、デザインやプレゼン内容であると説明し、それらに対応するため学生達は、技術、デザイン、広報など、チーム内で役割を決め、車輪の形や、モーターの接続方法などの議論を行いながら制作しました。プレゼン大会では、デザインのコンセプト、製作で工夫したポイントなどを積極的にPRしました。



### 家政教育コースの学生らが保育体験 子育て中の親子とふれあい遊び

家政教育コースの学生が、同部門の小崎恭弘教授が担当する授業「保育学実習(家庭看護を含む)」で保育体験を行いました。体験は柏原つどいの広場「ほっとステーション」で実施し、柏原市在住の親子16組が参加しました。学生らは4組に分かれて、子どもと一緒に参加して楽しめる手遊び、紙人形劇などの出し物を行いました。

学生らは、子どもたちの関心をひくことが想像よりも難しかったようで悪戦苦闘しましたが、保護者からはとても好評でした。小崎教授は、本体験の目的について、「子どもの反応がイメージと違うことはよくあるので、計画を立てて人前で実践し、そのギャップを埋めていくことが重要です。この反復が、将来授業を作る力になります」と語りました。



### 「学校安全の日」附属池田小学校行事 「祈りと誓いの集い」を実施

大阪教育大学附属池田小学校に刃物を持った男が侵入し、8人の児童の命が奪われ、13人の児童と2人の教員が負傷した事件から20年を迎えた6月8日(火)、同校で追悼式典「祈りと誓いの集い」がありました。午前10時12分、犠牲になった8人の名が刻まれた「祈りと誓いの塔」の鐘が児童代表の手で鳴らされ、参加者全員が黙とうを捧げて冥福を祈りました。

眞田巧校長は、「この20年の節目がゴールではありません。学校安全の取組を進める次のステップに向かう通過点にすぎないのです。決して事件を風化させることなく、目の前にある『祈りと誓いの塔』が建てられたその深い思いを受け継いでいけるよう努力を続けていきます」と決意を述べました。



### 編集後記

4月から大阪教育大学に赴任し、本事業にスタッフとして参加させていただくことになりました。皆さんのお役に立てるよう精一杯頑張ります。

さて、コロナ禍の中、開催の是非が問われた東京オリンピック・パラリンピックでしたが、日本選手の活躍で、日本中が沸き立ちました。メダルを獲得した瞬間や一生懸命競技する姿を見て、感動し、勇気もらった人も多かったのではないのでしょうか。

一方、新型コロナウイルスが猛威を振るっています。大阪府にまたもや緊急事態宣言が出て、オープンキャンパスも残念ながらオンライン開催となってしまいました。これまで対面式が当たり前であったのが、コロナを契機にオンラインという新しい形式に代わりつつありますが、やはり顔を合わせて学ぶことが大切ではないかと感じます。最後の12月の「教師にまっすぐ」修了式は本学にお越しいただき、対面で実施したいと思っていますので、体調には気を付けてがんばっていきましょう。(I)

## 大阪教育大学のSNSアカウント



### 公式Twitter

<https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv>



### 公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



### 公式YouTube

<https://www.youtube.com/user/OKUChannel>



イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。